

◇ 模擬講義のテーマ ◇

『モメごと』の解決と民事裁判

◇ 《設問1》(模擬講義の要点整理)の解答例 ◇

社会生活を送る上でモメごとが発生することは避けられない。モメごとが発生した場合、多くの場合、人々は交渉でその解決を試みる。交渉がうまくいかなければ、第三者を介したモメごと調整がおこなわれるが、民事裁判はその一つである。裁判は、裁判官による判決だけではなく当事者が互いに話し合い、主張を譲り合って和解で終わることも多い。また、裁判では、裁判が終了した後の話し合いを意識した和解に近い判決が出ることもある。(200字)

※キーワード

モメごと／紛争／トラブル、交渉／話し合い、裁判／民事裁判／民事訴訟、和解、判決、和解のような判決／裁判後の交渉

◇ 《設問2》の論題と評価の視点 ◇

〔論題〕

ゴミ集積所裁判の判決を受けて、自治会(A・Bをメンバーに含む)はどのように対応すべきでしょうか。600字以内で答えなさい。

〔評価の視点〕

- ・判決後の対応策(集積所を輪番制にする、自治会費で高性能のダストボックスを買う、など)について、具体的かつ説得的に記述できている場合は得点率60%を基準とします。
- ・判決後の対応策として、「移転しない」、「Bの家の前に集積所を移転する」やそれに類する提案は得点率40%を基準とします。同じく、「勝訴したのはA」という形でBを説得するという内容のものも得点率40%を基準とします。
- ・判決後の対応策について、具体的かつ説得的な提案であり、なおかつそれが論理的に述べられていると感得できる記述は、加点対象とします。同じく、A、Bの継続的關係性に配慮する内容の記述や、コミュニティの協働による紛争調整という視点が含まれている記述も加点対象とします。
- ・行頭の文字下げや段落分けが不適切な箇所があったり、誤字・脱字がある場合には、一定の減点をおこないます。